

今日の日米軍事同盟

をどう考えるか

安保破棄中央実行委員会事務局長

東森 英男

軍事一体化がさらに進行

9条改憲と戦争する自衛隊へ

いま、新型コロナウイルスの感染拡大により、世界と日本は未曾有の危機に直面しています。

イーリス・アシヨア計画中止、辺野古基地建設の設計変更、北東アジア情勢など、日本の安全保障にとっての大きな問題があるのでしょうか。安保破棄中央実行委員会事務局長の東森英男さんに寄稿してもらいました。(見出しは編集部)



東森さん



秋田県庁前でのイーリス・アシヨア配備反対行動

か、中小業者の廃業、労働者の首切りなど低所得者層に深刻な危機の押しつけが続いています。

一方で、増大する軍事費が大きな問題です。今年度の軍事費は5兆3133億円、中期防衛力整備計画では2019～23年度に27兆4700億円が計上されています。これは、1機160億円という攻撃型最新鋭戦闘機F35を147機も「爆買い」するトランプ政権いなるの結果です。

「コロナ後」の日本の政治は、大軍拡予算を削って、本来に国民と労働者の命と安

全、暮らしが最優先される政治を実現すること、憲法を生かした平和の構築こそ求められます。

米国いなるの計画

イーリス・アシヨアは停止

秋田県と山形県に配備が予定されていた陸上配備のミサイル防衛システム「イーリス・アシヨア」は、住民のたかいかいと世論の力で計画停止に追い込まれました。

秋田・山口ではこの間、地元住民などが粘り強い反対運動

国連のクーターレス事務総長は今年3月23日、世界がコロナウイルスという「共通の敵」に立ち向かうなか、難民や女性、子どもを守ることに集中するため、「世界のあらゆる場所での即時停戦」を呼びかけました。世界をこの方向に向けて変えていかなければなりません。



空母への改修が狙われる護衛艦いずも 出典：海上自衛隊ホームページ

自民党の国防部会と安全保障調査会は7月31日、イーリス・アシヨアの配備撤回を受けて、政府に対して「敵基地攻撃能力」の保有を求める提言を了承しました。

「敵基地攻撃能力」で大軍拡と軍事予算が膨張

これまで政府は、相手基地への攻撃は米軍にゆだね、敵基地攻撃能力は政策的に保有しないとしてきました。しかし一方ですでに、敵基地攻撃ができる長距離ミサイルや、これを搭載できるF35戦闘機などを導入し、「いずも」型護衛艦の空母への改造をすすめています。

今後、「敵基地攻撃能力」を政策として認めれば、監視衛星、無人偵察機、電子攻撃機などの兵器を保有することとなり、さらなる大軍拡と軍事予算の膨張を招きます。これは、アメリカの太平洋戦略を肩代わりの担うもので、日米の軍事一体化がさらに進むことは間違いありません。

この動きは、安倍首相が執拗に狙っている憲法9条改悪による、文字通り「戦争する自衛隊」への道です。

辺野古新基地は断念

普天間は無条件で返還を

河野防衛大臣がイーリス・アシヨア計画中止の理由としたのは「期間とコスト」です。「期間とコスト」を言うなら、辺野古新基地はさらに大きな無駄遣いです。

防衛省は2019年12月、辺野古新基地計画についての設計変更案を示しました。変

更の最大の理由は、滑走路予定区域の大浦湾に広がる海底軟弱地盤の改良工事です。総工費は予定の3500億円から2.7倍の9300億円に、埋立て工期は当初の5年(2018～2023)から9年3カ月に延び、完成まで12年としています。日米合意

で2022年をめどとされた普天間基地の「辺野古移設」は2030年以降ということになります。

この変更案にもとづく設計概要変更申請が今年4月に沖縄県に出され、現在審査中ですが、玉城知事は承認しない姿勢であり、工事期間はさら

に延び、費用も増えることは間違いありません。安倍政権が辺野古新基地の理由とする「普天間基地の危険性除去」は遠のくばかりです。

北東アジアの安全に

必要なのは平和の枠組み

安倍政権による大軍拡は、中国や北朝鮮などの動きによる「安全保障環境の悪化」を理由としています。

コロナ禍で国際協力が求め

完成の見通しが立たず、完成後に陥没の可能性がある新基地はきっぱりと断念し、普天間基地は無条件で返還すべきです。

られるなか、中国が東南アジア諸国と領有権を争う南シナ海への不当な主張を強め、軍事活動を強めていることは大きな問題です。また、中国の

公船が日本と領有権を争う尖閣諸島の領海に頻りに侵入し、緊張を高めていることも許されません。

2018年の韓国・北朝鮮による南北首脳会談による平和の流れが停滞し、北朝鮮の核問題解決が困難になっていることも大きな問題です。

しかし、このような動向に対して日本が、米国と一体になって軍事対応を強めることで問題が解決できるでしょうか。中国や北朝鮮の動向は、韓国と日本にある米軍基地と

その攻撃能力と深くかかわっています。

いま日本に求められているのは、米軍の太平洋戦略と一体となった軍備強化ではありません。「紛争を戦争に発展させない」を理念とする東南アジア諸国連合(ASEAN)を現実の二本として、北東アジアに平和の枠組みをつくるために努力することです。